

福島大学災害ボランティアセンターとの協働による地域活性化事業 最終報告書



2011年に発生した東日本大震災における震災関連死の死者数の多い福島県では、復興プロセスの長期化によって、新たに浮き彫りになった課題があります。それは、高齢者が孤独・孤立・地域社会の中で居場所が無い、外出しないということです。孤独・孤立がメンタルヘルスを悪化させ震災関連自殺者を増加させているのは明らかです。根本的な解決方法として、避難先や移住先における近隣住民への信頼・助け合いの意識を高め、さらに近隣であいさつを交わす人数を増やしたり、趣味・娯楽といった地域活動への参加頻度を増やしたり豊かな人々の信頼意識やつながりを醸成していくことが重要です。

また、近年では過疎地で災害が発生することで、さらに過疎化が進み、若い世代の復興支援者が少なくなっており、若者による復興支援を担う場づくりを行う必要もあります。

本事業を通して、これまでシャンティ国際ボランティア会(以下、シャンティ)で培ってきたつながりを活かし、地元で復興に携わる福島大学災害ボランティアセンター(以下、福島大災ボラ)で活動を行っている大学生主体の活動を支援することで、対象地域の高齢者が生きがいややりがいを感じる機会の構築を目指しました。

事業概要

事業名
福島大学災害ボランティアセンターとの協働による地域活性化事業
事業期間
2022 年 2 月～2024 年 12 月 ¹
事業対象地
福島県南相馬市
連携団体
福島大学災害ボランティアセンター
受益者
直接受益者:対象地域の高齢者及び地域住民、福島大学災害ボランティアセンターの登録者 間接受益者:南相馬市住民

活動内容

● 復興公営住宅などでのサロンの実施

当初は鹿島区を対象としていましたが、鹿島区に加え原町区の復興公営住宅や、南相馬市内の交流センターでサロン活動やイベントを行いました。サロンは、「食文化」「地域交流」「孤立防止」「学生交流」をキーワードに、主に復興公営住宅に住む地域住民と協働での食事作り(地域食堂)を通じて、学生と住民、住民間の交流を 9 回、地域交流イベントとして、小高区にてサテライト世代間交流サロンを 2 回実施しました。また、南相馬市市民活動サポートセンターのイベントへ 1 回出展し、全ての活動で延べ781人が参加しました。

サロン活動は、福島大災ボラの学生主体で進められました。学生が、現地で同様の活動を行っており、協働の可能性がある団体(南相馬市市民活動サポートセンター、NPO 法人みんぷく、ごんぼっばくらぶなど)との調整、実施する復興公営住宅の代表者が集まる自治会役員会議において、活動の趣旨の説明や賛同を得るところから、企画内容の調整、準備、実施を行いました。また、シャンティが状況に応じて、アイデアの提供、活動への同行、活動資金面の後方支援を行いました。

➤ 活動実績

日付	内容	場所	参加者(人)	災ボラ(人)
2023 年				
9 月 17 日	地域食堂サロン(南相馬の食材を使った豚汁、おにぎり、漬物づくり)	牛越団地	6	5
9 月 23 日	地域食堂サロン(お餅つき)	南町団地	40	7
10 月 23 日	地域食堂サロン(芋煮、おにぎり作り)	西町団地	11+配食 4	9
11 月 3 日	サポセンフェス	南相馬市市民活動	約 100	6

¹ 2022 年 1 月の事業部会申請時、条件付き承認。その後 3 月に福島沖地震が発生しました。カウンターパートである福島大災ボラの学生・担当教員と協議を行い、先方の以降やシャンティの実施体制を鑑み、事業内容の大幅な見直しを行い、2022 年後半から活動が動き始めました。

		サポートセンター		
11月11日	地域食堂サロン(芋煮作り)	北原団地	20	9
12月16日	地域食堂サロン(稲荷寿司、豚汁づくり)	南町団地	30	8
12月26日	サテライト世代間交流サロン (「オープンスペース南相馬！ 2023 ありがとう広場」)	小高交流センター	200	9
1月21日	地域食堂サロン(餅つき)	上町団地	21	8
2024 年				
7月7日	地域食堂サロン(ちらし寿司づくり)	北原団地	20	6
8月24日	地域食堂サロン(BBQ)	上町団地	30	6
11月17日	地域食堂サロン(BBQ)	南町団地	40	8
12月14・15日	サテライト世代間交流サロン(「オープンスペース南相馬！2024 ありがとう広場」)	小高交流センター、 鹿島万葉ふれあいセンター	14日:約100 15日:約100	14日:6 15日:9

その他、活動準備のための団地役員会議への参加、他の活動団体、施設への訪問、活動チラシ配布など多数あり。

サロンを実施した復興公営団地では、住民の入れ替わりもあり、令和4年福島沖県地震の被災者や、生活困窮者など福祉的ニーズの高い入居者がいたり、福島第一原子力発電所事故により、帰宅困難区域に指定されていた地区に住んでいた方が十数年ぶりに福島に戻り復興公営住宅に入居されたりと、コミュニティでの支え合いが必要な状況です。しかし、高齢化が加速する中、住民同士の繋がりがなくなってきており、自治会役員を担ってくれる人材も限られています。また、同じ団地に住んでいても、棟ごとの交流は極めて少なく、自治会役員であっても他の棟に足を踏み入れたことはないというほど、地域の関わりが希薄になっているといった課題が見えました。

2023年の活動では、福島大災害ボラの学生から、復興公営住宅の自治会役員会へ企画を打診して実施していましたが、サロン開始2年目の2024年には住民(自治会)からの申し出により、福島大災ボラとサロン活動と一緒に行動するなど、福島大災ボラが地域に関わることで、住民の皆さんが地域の課題に対して行動を起こす、といった変化もありました。



● 参加者・福島大災ボラの学生と関係者の声(災ボラの活動記録とインタビューより)

- ・ (参加者した住民から)「皆で食べるとおいしいね」「また来てほしいな」など、かなり肯定的な意見を言っていた。料理が得意な住民さんが集まってきて、美味しくするのにいろいろなアドバイスなどをもらいながら楽しく作ることができた。住民さん同士も世間話などを通してお話しする場面がたくさんあって、良い雰囲気だった。



- 初めての活動になったが、住民さんが楽しそうに調理をしてくれてよかった。一緒に食事をとることで、美味しさが何倍にも感じられたし、一人暮らしの方とも一緒に食事をとる機会を持つことができた。なるべく多く南相馬の食材を使ったことを話すと、住民さんも南相馬の野菜は新鮮で美味しいと話してくれて、こだわってよかったなと思った。南相馬で取れた魚も新鮮で美味しい、というお話も聞いたので、次回もし行くことができれば、魚料理にも挑戦したい。(2023年9月17日 牛越団地)
- ・ (参加した住民から)「こういう集まりは今までないから楽しくていいね」「今度はいつ来るの？また遊びに来てね」「お餅ついているのを見るのなんて何年ぶりだろう、つきたてのお餅はやっぱ美味しい」など今回の活動に対して本当に心から喜んでいただいた南町団地に行くのが私自身初めてだったが、本当にたくさんの住民さんが集まってきて、集合時間前から集会所の準備をしてくれる方、お雑煮の準備をしてくれる方、餅つきをしてくれる方、集会所でまったりしている方、など住民さん同士が仲良くお話ししたり、話さずとも同じ時間を隣でゆったりと過ごしていたり、とても雰囲気の良い穏やかな団地で、素敵だなと感じた。(2023年9月23日 南町団地)
 - ・ 住民さんが、学生団体への不信感を素直に話してくださったのでよかった。話をして、納得していただいたからには、一層丁寧に準備をし、住民さんたち全員が笑顔で帰れるようなサロンにしたい。(2023年10月8日 北原団地の自治会役員会議にて)
 - ・ 住民さんが楽しく会話しながら作っていたのが印象的だった。どんどん芋煮の準備が進み、味付けも住民さんが行ってくれたため地元の味になったと思う。家族で参加してくれた方がいた。子どもも芋煮やおにぎり作りに参加してくれて和気あいあいと活動することができとても良かった。住民さん同士のつながりが少なくなっているが、無くなっているわけではないと思うので続けていきたいなと思った。(2023年10月22日 西町団地)
 - ・ 稲荷寿司と豚汁を作った。役員さんはじめ住民のみなさんが積極的に知恵を出し合い学生にも教えながら調理を進めてくださり、とても美味しく完成した。豚汁の味付けは住民さんにお任せし、みんなで食べる際に、味付けをした方に向かってみなさんが「おいしいよ」と声をかける姿が印象的だった。学生も、料理を教えてもらったり、料理が完成するのを待つ間にお喋りや簡単なゲームをしたりする中で、住民さんと学生、住民さん同士のコミュニケーションの場をたくさん作れたと思う。料理を持ち

帰る方々もいっしょに、参加して下さったみなさんに喜んでいただけたようだったため嬉しかった。(2022年12月16日 南町団地)

- ・ 予想以上に人が集まり、世代間交流を実現できた。餅つきでは多くの方々が餅つきに協力して下さり、南相馬市のみなさんと力を合わせてついた餅はとても美味しかった。小さな子どもたちが持ちつく姿をほほえましく見守る大人たちの姿が印象的だった。しめ縄作りは、これを目当てに来場して下さった女性が3名いっしょに、熱心に説明を聞いて下さった。子どもたちも初めての体験に目を輝かせており、そんな子どもたちを見て講師らも、大人や大学生の私達には見せない笑顔を向けていた。子どもがわら細工に挑戦する姿をみんなで応援して盛り上げるような空気感があり、しめ縄づくり体験が世代間交流のきっかけにもなっていた。(2024年12月 サテライト世代間交流サロン 小高交流センター)



- ・ 米が炊き上がるまでに想定よりも時間がかかってしまったが、トランプや文字合わせのゲームなどを小グループを作って実施することで楽しい待ち時間にすることができた。住民さんの知恵や協力を得ながら餅つき、雑煮づくりをすることができた。住民さんから、いつもは一人でご飯を食べているけれど、久しぶりに人と一緒にご飯を食べることができて嬉しい、と言って頂けたので行って良かったなと思った。(2024年1月24日 上町団地)
- ・ 災害ボラセンの学生を含め、参加した子どもから、おじいちゃんおばあちゃん世代まで、お話ししながらBBQを楽しむことができていたと感じた。世代の違う住民同士で「どこの棟に住んでいるの?」と聞き合ったり、学生に「会えてよかった」と言ってくれたりする様子が見られて交流できているという実感がわいて嬉しかった。(2024年11月17日 南町団地)
- ・ 住民からは「資金をとることに難儀しており、サロンは実施してこなかった。住民交流のいいきっかけをもらった」という。(2024年3月5日、シャンティ・福島大災ボラとの打ち合わせ記録)
- ・ サロンに参加した方は、1年越しに参加した学生を参加者は覚えており、参加者からの「再開を喜び心待ちにしていた」という言葉は、活動を通して参加者に生きがいを与えられたのではと感じる。また、地域食堂サロンでは毎度参加した住民の皆さんがエプロンをつけ、学生に教えながら能動的に進められていたことからやりがいを感じる機会だったと思う。これは単年度の活動ではなかったことで、良かった。

会計報告

【収益】

項目	金額(円)
指定正味財産からの受取寄附金振替額	4,836,017
指定正味財産からの受取補助金振替額	0
雑収益	0
収益合計	4,836,017

【費用】

項目	金額(円)
復興支援金	4,836,017
費用合計	4,836,017

※東日本大震災支援募金はすべて一旦、指定正味財産の受取寄附金／受取補助金として計上した後、費用に応じて収益に振り替えています。

【2024 年度寄附金・補助金】

項目	金額(円)
東日本大震災支援募金	70,000
合計	70,000

東日本大震災支援寄附金預金残高

5,871,861

発行日:2025 年 6 月 30 日



公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
国内事業課
東京都新宿区大京町 31 慈母会館 2・3 階
TEL 03-5360-1233
FAX 03-5360-1220
URL <https://sva.or.jp/>